山形県介護支援専門員協議会

会　誌

第12号 2004. 3

揺れ動くケアマネ業務

村山地区支部　支部長　荒井幸子

「新規に介護認定を受けた人の4～5割は要支援、要介護1の軽度の人である」

最近開催された県内外の介護保険関係の会議や研修会で、強調されて言われている言葉である。

「軽度の人に訪問介護を入れればこれまでできていた家事ができなくなる」「ベッドや車椅子を導入したから寝返りや歩行ができなくなった」「軽度の人に訪問看護を入れるなんて何を考えているのか」

言われてみれば、なるほどと思う人がいるかも知れないが、反感を覚えたケアマネも少なくないのではないだろうか。

介護保険の趣旨である自立支援を目指し、きちんとアセスメントを行い、利用者本位のプランを作成してきたつもりだから…。

このために入院や入所に至らず、在宅を継続できた人がどんなにいるのかを考慮しているのだろうか。

とどの詰まりは、介護給付額の増加で保険財政が厳しくなったからに他ならない。

給付額の増加をくい止めるため、あの手この手でケアマネ業務にも追ってくるような気がしてならない。

その1つに住宅改修の際、ケアマネが記載していた意見書の作成料の廃止がある。住宅改修の際は、現場確認から業者との打合せ、完了後の点検など何回も足を運ぶのにその報酬が算定されない。プラン作成料に含まれるという解釈のようであるが住宅改修のみで、その後のサービスは要らない人の場合はボランティアである。

次に、平成15年4月からの居宅介護支援事業の運営基準の改正で、居宅サービス計画の原案について利用者または家族に説明し文書により同意を得なければならないこととなった。

高齢の利用者の場合は文字を書くことは難儀なことである。

また、利用者に知られてはいけない内容は記載できないし、課題抽出された内容を利用者の気持ちを汲んだ表現をしなければならないので、何回も文章を読み直し吟味している。ただでさえ事務量の多いケアマネ業務に更に輪がかかったようで休日出勤や時間外が増え続ける。

そして、冒頭の軽度の認定を受けた人へのケアプランの組み方である。私ごとであるが年配のケアマネにとっては頭が空廻りし、よく解らなくなってきている。

さて、平成17年4月からの見直し内容はどうなるのだろうか。それは1年後に迫った。

《目　次》

揺れ動くケアマネ業務……村山地区支部 支部長　荒井幸子… 1
特集1　「ケアマネジャーと理学療法士の連携を考える研修交流会」報告 …… 2
特集2　地区支部報告 …… 5
第18回定例理事会 …… 9
各委員会報告 …… 11
作業療法士会研修会報告 …… 12
県庁だより …… 13
コーヒータイム …… 14
編集後記 …… 14

特集1 「ケアマネージャーと理学療法士の連携を考える研修交流会」報告

山形県理学療法士会職能局介護保険部主催

[研修交流会内容]

ケアマネジャーと理学療法士（以下ＰＴ）の連携を深めることを目的に、ますはお互いの“顔を知ろう”“仕事を知ろう”という趣旨で、研修交流会を開催させていただきました。

モデルケースを、入院中の理学療法治療場面と、退院に伴う在宅生活のケアプラン作成場面で検討するという作業を、グループで取り組みました。お互いに、知っているようで知らないことが、ディスカッションの中からたくさん出たようです。ワイワイ盛り上がるグループ、考えをじっくり交換するグループ、すっかり意気投合するグループなど、グループごとの特徴もありました。中でもケアマネジャーの方々に喜んでいただけたのは、グループメンバーの一人がモデル患者になり、別のメンバーのＰＴ一人がモデルＰＴとなり、日常の臨床場面を再現したことです。初回評価、理学療法プログラム（治療計画）作成、プログラム実施を、説明を加えながら模擬的に行い、ケアマネジャーの方からは積極的に質問が飛んでいました。するどい突っ込みに汗をかきながら説明するＰＴがいる一方、余裕しゃくしゃくのベテランＰＴもいて、グループごとにカラーがありました。

模擬理学療法のあとは、モデルケースの在宅復帰に向けての模擬カンファレンス。そこでは総合的援助方針、具体的なケアプランを作成しました。病院勤務のＰＴは、「援助方針」や「サービス内容」などの言葉に触れる機会が少なく、ケアプランがつくられていくプロセスを初めて知ったというＰＴもいました。

グループの特徴は、模擬ケアプランにも現われました。援助方針や、優先するニーズの捉え方や、サービス内容など、全グループが別々に一つのケースのケアプランを作成したわけですが、多種多様の考えが出され、グループごとの発表を聞きあうことで、一層の広がりを持つことができました。グループワークの醍醐味が発揮された研修会となったようです。

それぞれの分野においては常識的なことでも、分野が異なれば新鮮な視点となり、学びがあります。「へー」「ホー」「フーン」という声と共に深いうなづきがあちこちでみられました。

「休憩時間ですよ」の声も聞こえないほど、熱心に質問したり検討したりするグループも多く、お互いへの関心の高さをあらためて感じました。

グループワーク進行は介護保険部の丹野克子が務めました。

[開催日時と場所]

・最上地域
　平成15年10月４日　　新庄市
・庄内地域
　平成15年11月15日　　余目町
・置賜地域
　平成15年12月13日　　米沢市
・村山地域
　平成16年１月17日　　山形市

模擬理学療法～理学療法評価を始めます～

[参　加　者]

参加延べ人数　161名

ケアマネジャー　85名

理学療法士　76名

中には、勉強になったと言って、
一人で複数回参加したPTもいました。

模擬理学療法
～体幹の動きを促し、上肢の機能を高める～

[参加者の声]

（アンケート回答から一部抜粋）

アンケート回収率79％～96％という高率で、時間をかけてじっくり回答してくださる方が多かったことに、主催者側が驚かされました。楽しく有意義な研修会だったことがここにも窺えます。

Q：今回の研修交流会はいかがでしたか。

A：ケアマネジャーの方々の回答の一部抜粋

・ケアマネジャーもＰＴも忙しい中、同じ思いでいた事を知りうれしく思い、もっと交流が必要だと思いました。
・大変有意義な研修で、日頃の疲れが取れたようです。
・ＰＴの業務やインテーク時の関わり、単位の話や素朴な質問もでき、大変有意義な時間となった。
・「聞きたいが聞けない」と感じ、話を聞く機会を持てなかったのですが、ＰＴの方から「聞いて下さい」の言葉が出ましたので、心強く思いました。
・ＰＴの仕事について、あらためてわかりました。
・リハビリの目標によって大きくプランが変わるので、計画を立てる前に正確な情報を掴みたい。
・直接リハビリ専門職とディスカッションできたことで、たくさんのことを知ることができました。自分の仕事にもう少しリハビリの要素を入れられるように思いました。
・PTに「今後自分の担当の方の情報をもらえること」「どのようにしたら良いか相談できること」が可能になるなと思いました。より良い援助につなげたいです。

A：ＰＴの方々の回答の一部抜粋

・患者さんの将来を見据えてプランを立てていく難しさを改めて感じました。
・ケアマネジャーの仕事内容を勉強できたので、自分の勉強不足に対する向上心の良いきっかけとなりました。
・ケアマネジャーの求めること、知りたい情報が知ることができた。また、情報を伝える際、受け手を考慮した対応が必要とも思った。
・ケアマネジャーが立案したケアプランの意味をもっと理解した上でサービス提供をしていかなければならないと思いました。

休憩時間なのですが、
みんな熱心に話し合っています

・ＰＴとしてしなければならないことを、今まで以上に感じることができたし、ご利用者に対する医療・福祉のチームワークの重要性を実感した。
・近郊でありながら日頃の交流が持てないケアマネジャーの方と意見交換を行え、顔見知りになれたことで、気兼ねなく連絡できるようになれたと思います。また、他の研修会と違い、和気あいあいと気兼ねなくお話できる雰囲気をスタッフの方に作って頂き、楽しかったです。
・今後もこういった勉強会を持ち、違う職種が考えるイメージ・こうして欲しいといった希望を聞くことで、業務の幅が広がっていくと思います。
・自分の施設のケアマネジャーとはすぐに連携が取れても、他の事業所の方にはやはりちょっと取りづらい所があったですが、今後はもっと気軽に連絡が取れそうです。

［御　礼］

余談ですが、研修会後、ご参加くださったケアマネジャーの方から「実際的でとてもおもしろかった。来年も絶対開催して欲しい」との感想をお寄せいただいています。開催予定で検討中です。

多数のご参加、積極的なグループワーク活動、そして何より、理学療法と理学療法士へのご理解と貴重なご提言を、現場からのリアルな声でいただけましたことに対して感謝申し上げます。

ケアマネジメントにおいては、専門職同士をつなぎ、連携のネットワークを作り上げることが大変重要なことだと思われます。今後も、共有するご利用者の自立支援のために、更に連携を深めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。報告の機会をいただきまして誠にありがとうございました。

（山形県理学療法士会職能局介護保険部）

大勢の方が、グループワークに参加して下さいました

特集2

地区支部報告
（最上地区・山形地区・村山地区）

最上地区支部

平成15年度　第3回研修会

支部事務局長　髙木知里

日　時：平成16年1月24日（土）
場　所：特別養護老人ホーム「かつろくの里」
　　地域交流ホール
参加者：19名（非会員含む）
テーマ：「住宅改修について」
講　師：新庄徳州会病院　リハビリテーション科
　　理学療法士　佐藤静子先生

第3回支部研修会は在宅生活を維持していく上で重要な鍵である「住宅改修について」の研修会を開催しました。講師は、地域に密着した情報という点から新庄徳州会病院　理学療法士　佐藤静子先生にお願いしました。

1．介護保険の現状

高齢人口の増加と労働人口の減少が進む現在、財源の有効活用及び、介護保険の理念である「要介護状態の軽減・予防や在宅での自立した日常生活」の実現に向け、今後住宅改修が重要なカテゴリーになると考えられます。

＜新庄市福祉用具・住宅改修実績＞

	福祉用具購入		住宅改修	
	件数(件)	給付(円)	件数(件)	給付(円)
12年度	77	1, 465, 711	39	3, 259, 604
13年度	90	2, 125, 614	72	6, 483, 959
14年度	125	1, 941, 112	74	6, 996, 160
計	292	5, 532, 437	185	16, 789, 723

＊新庄市では介護保険導入により、平成12年度に比べて平成13年度、平成14年度は倍に増えています。

＜日本家屋の問題点＞

段差が多い、尺貫法による制約、室面積が少ない、和式（座式）の生活様式などがあげられます。

2．住宅改修各論

＜改修の留意点＞

・疾患の特性・身体機能の理解
・身体機能の経時的変化
・福祉用具の活用
・経済的側面
・家族の介護能力と家族全体の生活
・キーパーソンの確認
・医療、保険、福祉、住宅改修の専門家との連携

＜よく行われる住宅改修＞

・段差の解消、高低差移動の軽減
・トイレの整備
・浴室整備

3．グループワーク

＜症例＞（一部抜粋）

年齢83歳、脳梗塞、退院時ＡＤＬ杖歩行監視、移乗動作監視～自立（平面図省略）

＜浴室づくりのテスト問題＞（一部抜粋）

①間口は（　）cm以上②扉の形態は？③扉の材質は？④扉はどっち開き？⑤この浴室の広さは？⑥出入り口の段差を解消するにはどんな工夫を行うか？⑦介護者のスペースはどれくらいあればよいか？

などの具体的な項目をチェックしていきました。グループワークを行うことで地区のコミュニケーションも図られ有意義な研修会となりました。

また、今回は、「社会福祉協議会の事業について具体的に介護支援専門員が認知していないのでは

ないか？」という声により急遽、＜社会福祉協議会の事業について＞を企画し、講師を新庄市社会福祉協議会　黒坂陽一氏（社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員）にお願いしました。「新庄市社会福祉協議会にはホームページがあるので利用してください。」とのことでした。これからも地域に密着した研修会を企画していきたいと考えております。

山形地区支部

平成16年2月14日土曜日の15時から17時まで、山形市総合福祉センター3階会議研修室にて、「おもしろケアマネ体験談」と題し、山形県介護支援専門員協議会・佐藤貴司理事の進行にて研修会が開催されました。

ケアマネージャー活動の中で、毎日いろいろな出来事があります。辛いことや悲しいことが多いなかで、ほっとすること、思わず笑っちゃうことなど、そのような出来事をみんなで紹介し、話しあいました。

あるケアマネージャーより、「担当するご利用者が亡くなった場合、焼香や香典など、どうしているのだろう？」と、なかなか聞くに聞けない話題が提供されました。香典を個人のポケットマネーで準備し焼香に行く人や、それぞれの事業所で香典を用意してくるところ、また、事業所が香典の予算を組んでいないため、個人では包まず、通夜の頃を見計らってさっと訪問し焼香してくる人など、さまざまな報告がありました。大変お世話になったご利用者に、最期のお別れをしたいという気持ちは、どのケアマネージャーも同じです。みなさん、いろいろな方法を考えておられるようでした。ケアマネージャーからすれば、「事業所で香典の予算を組んで貰うことが、

一番ありがたい」という話題で一致しました。

また、「ケアマネージャーは何でも屋で、何につけても連絡が来て対応を求められる」など、業務が多忙で大変だという話題がたくさん出ました。毎日電話をよこし、「特別養護老人ホームに長期入所させてくれ」と訴える家族や、福祉サービス事業所と利用者とのトラブルにもかかわらず、ケアマネージャーに対応を求めてくること、また、事業所とのトラブルで、利用料を払わない場合もケアマネージャーに対応を求められ、「何とかしてくれ」と集金を依頼されるなど、何につけてもケアマネージャーが都合のいいように使われていることが、苦労話しとしてたくさん出ました。介護保険制度が始まった時、ケアマネージャー業務がよく理解されておらず、何でも引き受けて行動してしまったため、それの延長が「何でも屋」になってしまったのではなかろうかという、厳しい意見も出ました。今からそれを変えていくことは、なかなか難しいことかもしれませんが、私たちも、出来る事と出来ない事の線引きを明確にして、きちんと発言していかなければならないと思われます。

他、お金にならない（福祉サービスの利用に結びつかないため、居宅介護支援費が入らない）活動が多いことや、利用者にとってケアマネージャーは一人だが、ケアマネージャーは多くの利用者を抱え、業務量が多く苦しんでいること、ケアマネージャーが一生懸命頑張れば頑張るほど、利用者は家族より

ケアマネージャーを頼りにしてしまうため、利用者と家族との距離が離れていってしまうことなども話題になりました。そして、利用者や家族とケアマネージャーとの相性があり、合わないときは大変辛い

という、普段とても口にできないような話しも出て、お互い静かにうなずき合いました。

困った事例として、家族は福祉サービスの利用を希望しているにもかかわらず、「お上の世話にはなりたくない」と話す利用者がおり、利用者と家族にはさまれて大変苦労しているとか、制度上の「介護の手間を時間で見るのは間違いだ」など、たくさんの話題で盛り上がりました。

今回の研修会では、口にすることすらタブーと思われるような話題について、意見交換することができ、内心ほっとした方も少なくないと思います。参加者は10名でしたが、次回は是非多くの方に参加していただき、日頃のストレスを発散して欲しいと思われる研修会でした。

村山地区支部

平成 15 年度　第 3 回研修会

日　時：平成 15 年 12 月 7 日
場　所：寒河江市ハートフルセンター
講　師：（助言指導）
　　山形市社協　佐 藤 貴 司 氏
テーマ：事例研修

1　事例提供

A　寒河江やすらぎの里　日 塔 佳 代 氏

(1)タイトル『介護支援専門員ができる事業所の説明～より良い信頼関係を築く為に～』

(2)事例の提出理由・目的

寒河江市では、高齢者総合調整連絡会議（地域ケア会議）において、昨年までは支援センターと介護支援専門員を中心に会議を行われてきたが、平成 15 年度からは寒河江市民の利用している事業所全般の質の向上も考えて他職種も会議参加を呼びかけている。

意見交流の場ともなり各事業所から介護支援専

門員への厳しい指摘も受ける現状がある。

居宅介護支援事業所として、事業所間での意見のくい違い、思い違いなどからくるトラブルについて今後の対応として苦慮している点がある。

・個々の居宅介護支援事業所や介護支援専門員の立場は弱いので、協議会として会員が働き易い環境を得られるよう考えて欲しい。
・今回のような事例の場合、担当ケアマネとしてなど対応として、どのようなものがあったか教えて欲しい。
・その他、ご意見いただきたい。

(3)ケース経過

場面　①　はじめての介護保険サービス利用
場面　②　調整日当日
場面　③　家族の振り返り・ケアマネの言い分

場面 ④ その後

ケアプラン作成にあたっての諸問題

・ご家族と本人の考えが違う
・事業所が介護保険を理解していないので繋ぐのが怖い
・明らかに問題があると分かっているが家族が気づいていない
・明らかに問題があると分かっていて、家族も気づいているがサービスには結びつかない
・本人・家族のゴール目標が高すぎる
・サービスへの期待が大きすぎる
・話が通じない家族がいる、キーパーソンも要介護状態のような時、他家族との連絡のタイミングが難しい
・キーパーソンになかなか連絡がつかない
・訪問介護の身体と生活援助の基準がわからない
・前担当がＮＳ出身のＣＭだった為、浣腸・摘便など家族希望時訪問して施行しており、できない旨伝えることに苦慮

B　村山市社会福祉協議会　斉 藤 幸 子 氏

『在宅酸素利用の医療系の事例』について

2　グループ討議

事例提供者より出席者全員で事例提供の説明を聞いた後に２グループに分かれて、１グループ１事例について司会を決めて討議

3　発表

２グループで討議したまとめを、それぞれのグループの代表者より発表

4　助言指導

保険者への文書の提出でクレーム等の報告をしたら、改善点の回答が欲しい等、施設により併設の母体の病院によって、出来るサービスの内容が違ってくる等の助言と、豊富な経験による事例検討の解説のため出席して大変勉強になりました。

18回定例理事会

と　き　平成15年3月7日
10：00～12：00
ところ　山形市総合福祉センター
出席者：会長、副会長1名、理事16名、監事2名、オブザーバー2名、事務局

1．開会（峯田理事）

2．会長あいさつ

今期限りで会長引退を考えている。今後は顧問として会に関わっていきたい。

3．協議

1）平成16年度総会について・・佐藤（貴）理事より

研修会　4月18日(日)「相談面接のポイント」講師　白百合女子大助教授　大坂純先生の了解を得ている。

役割分担については前回と同様委員会ごとに担当する。

2）平成16年度収支決算・予算（案）について・・島崎理事より

3月1日現在の決算状況を別紙により説明。繰越金がかなり前年度より減少する見込み。16年度予算（案）を別紙により説明。予備費がとれない厳しい状況。

（峯田理事）今後、会員を増やす、委託事業を増やす、会費を上げるなどの対策検討が必要。3団体の負担割合については会費入金状況の人数割りで代表者会議で決定した。

（林理事）16年度の予算を見ると、17年度の予算はたてられないのではないか。収入に見合った事業を考えたほうがいいのではないか。背伸びをする必要はない。

（加藤理事）300万円の収入を見込んで、500万円の支出では成り立たない予算の組み方ではないか。

（島崎理事）収入の約半分が事務所経費になってしまい、事業ができない。3，000円という会費にむりがあるのではないか。

（林理事）来年、繰越金がない、ということになったときどうするのか。事業はできなくなり、理事の責任となる。

（本間監事）会費の値上げを考える時期にきているが、それによって会員数の減少につながるのが心配。また、リーフレット・名簿などの予算が入っていないので16年度それをするとすればさらに支出が増えるのではないか。

（加藤理事）地区支部助成を10万円から0円にするとか、広報等の予算を抑えることなどが必要。

（青木理事）封筒と発送代だけで一回14万円ほどかかってしまう。会誌の内容がないのでは意味がないので、予算を抑えるとすれば年4回という発行が無理なのではないか。

（峯田理事）16年度はこの予算書にそって、各委員会毎なるべく節約する方向でお願いしたい。会費は前納制なので今回の総会で値上げするのであれば話をしておく必要がある。

（本間監事）地区支部で助成金をどのように使ったのか知りたい。適切に使われているかどうか監事として知っておく必要がある。

（大道寺監事）もっと内容を精査する。細かい活動内容を知ることで他支部を見習うこともできるのではないか。

（加藤理事）中身は地区支部に任せたものなので、各地区で把握していれば、報告する必要はないのではないか。

（三須理事）もう一度科目ごとにチェックし直し次回理事会までに予算案を見直してほしい。

3）各委員会活動報告

○研修委員会

資料により説明。2回の研修会を開催し盛況だった。16年度もウェルフェアへの共催依頼が山新よりきている。

○サポート委員会

相談事業への協力。他県の情報誌を収集し活動状況を調べ本会の運営に役立てる。

○広報委員会

来年度は経費削減のため、印刷業者の変更

や発行回数を減らすことを考えている。

○総務委員会

資料により説明。今年度はＮＰＯ法人設立に関する調査検討、他都道府県受託事業の実態調査、規程の検討などを行った。

4）支部活動報告

○庄内支部　鶴岡にケアネットという組織ができ、本会と区別するのが難しい。地区活動が盛り上がらない要因となっている。

○最上地区　年４回の研修会を開催。業者とのタイアップ、無料の会場を使用するなどして経費節約をした。

○村山地区　年４回の研修会を開催。村山支部では１,000円の支部会費を徴収している。他支部も活動を盛んにするために検討してもよいのではないか。

○山形地区　資料により説明。年４回の研修会。年２回の役員会を開催。

○置賜地区　今年度は１回の研修会。３月中旬に役員会を予定しているので研修会を増やすことを検討したい。

5）役員選挙に向けて日程の確認・・峯田理事

規程に基づき３月18日に公示。４月８日が提出期限。事務局で準備を進めている。

6）その他

（佐藤理事）ウェルフェアについて、８月28日研修会を予定。

（峯田理事）県内では在宅介護支援センターとケアマネジャーを兼務しているところが多いが、連絡協議会がまだできていない。設立の動きがあるので本会でも関わっていきたい。会議などには峯田理事が出席する。

（三須会長）３月21日17：30よりビッグウイングで医師会主催の介護保険に関する講演会が開催される。講師は西島英利先生。ケアマネにも参考になるので参加してほしい。

＊次回理事会　４月10日（土）

17：00～19：00を予定。

山形県介護支援専門員協議会第４回通常総会並びに平成16年度第１回研修会のご案内

来る平成16年４月18日(日)午後１時より山形県介護支援専門員協議会第４回通常総会並びに平成16年度第１回研修会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。

記

第４回通常総会（午後１時～）

日時　平成16年４月18日(日)

会場　山形ビッグウイング

山形国際交流プラザ

〒990-0076　山形市平久保100番地

TEL　023-635-3100

平成16年度第１回研修会（午後２時～）

日　時　平成16年４月18日（日）

会　場　山形ビッグウイング

テーマ　「相談面接のポイント～話のわかる介護支援専門員をめざして～」

講　師　仙台白百合女子大学総合福祉学科

助教授　大坂　純先生

（元仙台市立病院ソーシャルワーカー）

各委員会報告

総務委員会

当面の役割は、次年度の役員改選手続きです。それに向けて公示からの選挙日程までの準備をしているところです。さて、委員会として中期的な課題としているのが法人格の取得と規程等の整備です。法人格については、2～3年をかけて準備を進めていくことにしています。規程については、規程全体が制定して間もないので改正をむやみに行うと体制に混乱をきたすということで、現行の規程を解釈しながら当面は使っていくことにました。しかし、問題点は出てきていますので、必要な改正は徐々に行っていくつもりです。

財務委員会

来年度の会費納入はお済みでしょうか。
介護保険の制度上の変化に、ついていくことが大変と思うこともしばしばです。
実際に実務をしている介護支援専門員が声をあげないと、理論上の保険制度になってしまいます。そのためにも協議会で力を合わせ、疑問や要望を上申していかなければなりません。パワーを結集できるように多くの方が会員となってくださるように切にお願い致します。

調査研究委員会

現在、『ケアカンファレンスの現状』を、どのように調査するか協議中です。
伝え聞くところによると、県の行政監査においても、減算対象事由の上位に相当しているらしいとの事で、かなり深刻な問題をはらんでいるようです。

研修委員会

平成 16 年度事業計画

・第 1 回研修

日　時　平成 16 年 4 月 18 日（日）
会　場　山形ビッグウイング
内　容　「相談面接のポイント～話のわかる介護支援専門員をめざして～」
講　師　仙台白百合女子大学総合福祉学科
助教授　大坂　純 先生
（元仙台市立病院ソーシャルワーカー）

・第 2 回研修

日　時　平成 16 年 8 月 28 日（土）
会　場　山形ビッグウイング
内　容　第一部「介護環境の整備～住宅改修と福祉用具から～」
第二部「介護支援専門員活動実践報告」
講　師　第一部　ふつうのくらし研究所
（日本シーティングコンサルタント協会理事長）
所長　吉川和徳 先生（理学療法士）
第二部　案）
県内外の実務者 2～3 名
その他　「やまがたウェルフェア 2004」の併催事業（8／28～29）

広報委員会

会員に読んでいただけるような会誌にしたいと努力を続けてきました委員一同ですが、今回の会誌 12 号にてこのメンバーでの会誌発行は最後となります。第 1 号から会誌の発行にかかわってきました 4 人です。寂しいような、名残惜しいような複雑な心境ですが、会員のみなさまに励まされながら、無事に最後の会誌をお手元にお届けできます事を感謝いたします。次号からは、さらなる研鑽を積んだ会員が委員会を組織いたしまして、みなさまの元へ会誌をお届けいたします。

作業療法士会研修会報告

県作業療法士会主催　多職種研修会「住宅改修に関する研修会」が開催されました。

朝日町立病院　**清 野 敏 秀**（山形県作業療法士会）

2月21日（土）、山形医療技術専門学校を会場にして、作業療法士、理学療法士、ケアマネジャー等を対象に、住宅改修に関する研修会が開催されました。講師に日本大学理工学部建築学科の八藤後猛先生をお招きし、『実務に役立つ住宅改造と建築の基礎知識ー建築図面の見方描き方、工務店とのつきあい方　建築業界は、こうなっているー』というテーマでお話をいただきました。

この研修会のきっかけは、昨年度開催しました「作業療法士・ケアマネジャー交流研修会」の中で、住宅改修に関する現場の問題点が取り上げられたことでした。ケアマネジャー・作業療法士双方にとって、早急に対応力を身につけるべき課題であると考えられました。そうしたことから今回の研修会となったわけですが、参加申込の段階で160名を超える申し込みをいただき、その関心の高さに驚かされました。最終的な参加者は151名（作業療法士56名、理学療法士55名、ケアマネジャー等32名、学生8名）となりました。

八藤後先生は一級建築士で、住環境や住宅改修に関する著作も多く、3年前に山形で福祉用具プランナー養成研修会が開催されたときも、講師でお出でいただきました。その際の講演内容も非常に豊かで印象的だったので、今回講師にお願いしたところ、快諾をいただきました。

内容は、日本の住宅の特徴と問題点、住宅改修に関心が持たれるようになった歴史的背景、住宅改造の具体的方法・注意点、福祉用具と住宅改造の関係、建築業界のシステムや建築士と施行業者との関係等について、時間を少々延長してお話をいただきました。特に改造については、段差の解消、手すり設置の注意点、浴室・トイレの改造等、普段住宅改修でかかわることの多い課題について、大変分かりやすく詳細に教えていただきました。

また医療・福祉関係者ではなかなか分かりづらい建具に関することや、工務店の決定について注意する点（なじみの工務店がよい、等）、工事が終わっても手直しのあることが普通のことであること、打合せの記録は文章で残すことといった注意に関しても教えていただきました。

例えば工務店に改修を依頼して「ここを直してほしいと言ったら、ここも直せと言われた。儲けようとしているのではないか」などということをよく経験すると思いますが、そうした点も建築関係者から見れば、別に儲けようとしているのではなく、痛んでいる所が見えるので言っていることが多いということでした。誤解を解き、建築関係者と良好な関係を築いてほしいという先生の思いが伝わってくる内容でした。

ステージいっぱいを使用して参加者に語りかける（訴えかける？）ような講演は、参加者が今後建築関係者と連携を図り、効果的な住宅改修を行っていくために十分な内容を伝えることができたと感じました。

研修会が終わって、先生を山形駅までお送りする車の中、5年後くらいに、もう一度来県していただき、講演をいただきたいとお願いしてしまいました。

乞う　ご期待！

県庁だより

介護支援専門員研修　実施報告

今年度も山形県では介護支援専門員の資質向上を目的として様々な研修事業を行ってきました。これら研修の受講状況等について報告します。

《実務研修について》

今年度は、H 15 介護支援専門員実務研修受講試験合格者とH 14 実務研修未受講者あわせて 333 名を対象に、1月から3月にかけて、3コースで実施しました。

今年度はカリキュラムの見直しがあり、ケアマネジメントの理解に重点をおいた内容になりました。前期・後期あわせて5日間、35時間のハードなカリキュラムを修了し、新たに327名の介護支援専門員が誕生しました。

《現任研修について》

今年度は習熟度別に基礎Ⅰ・Ⅱ、専門の3つの研修課程で行われました。

基礎Ⅰでは保健医療の基礎知識・各サービスの理解や活用方法と連携など、各分野の専門家を講師に招いて、4日間、24時間の研修となりました。

基礎Ⅱでは、居宅と施設に分けて、12時間、介護支援専門員の課題や事例を通した演習を行いました。

専門では、介護支援におけるリスクマネジメント、サービス担当者会議演習など、より高度な内容の研修となりました。

各課程とも、定員を大幅に超える受講申込があり、専門では急遽日程を追加したほどでした。改めて皆さんの研修に対する関心の高さを実感しました。

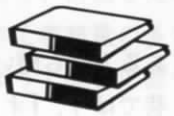
《介護支援専門員の支援体制について》

地域の介護支援専門員に対する支援を行うケアマネジメントリーダーが、全市町村に78名配置されています。

ケアマネジメントリーダーは3日間の養成研修の後、2日間の現任研修を受け、地域での支援活動を行っています。今後は市町村の担当者と協同しながら、個別相談はもちろん、介護支援専門員に対する地域支援体制の強化や地域の実情に応じたケア体制の構築に向けて、重要な役割を担っていただけるものと期待しております。

【問い合わせ先】

県庁長寿社会課介護保険推進室
TEL：023−630−2189
023−630−2158
FAX：023−630−2271



＊介護支援専門員実務研修テキストについて＊

今年度、国の実務研修事業実施要綱が見直されたことにより、ケアマネジメントに重点をおいた新しい研修カリキュラムが示されました。これに伴い、新しいカリキュラムに沿った「介護支援専門員実務研修テキスト」（2，400円）、ケアプランの作成方法を解説した「居宅サービス計画書作成の手引」（800円）が作成され、㈶長寿社会開発センターから発行されました。本県でも実務研修テキストとしてこの2冊を使用しました。

本テキストはケアマネジメントのプロセス全体を理解することを目指して作成されており、各単元ごとについているチェック表で自己評価することができるようになっています。実務研修中のみならず、実務に就いた後でも自らの実践のチェックに役立ちます。

書店では取り扱っていないので、問い合わせは

㈶長寿社会開発センター（TEL：03−5470−6760）までお願いします。

募　集

この会誌は年４回発行しております。
一般広告、求人広告を募集しております。
詳しくは、広報委員会におたずね下さい。

コーヒータイム

「ご飯を食べると元気になる」わかっているようで、なかなか実感できません。

ところがショート利用のＫさんは見事に復活します。

自宅では食事が摂れず、どらやきばかり。顔色も悪く、自分でご飯を食べる力もありません。言葉がけしながら介助をし、毎日全量摂取していると１週間後には自分で食事も取れる、顔色も良くなる、笑顔で話を始める、ベット上で多動になり危険になる、という変化がはっきり見て取れます。ショートから帰る頃には元気なばあちゃんに早代わり。活発になって自宅にご帰還、おとなしくなってショートに入り、という繰り返しです。復活ご希望の方はたまには施設も利用されてみてはいかがでしょう。

（SML）

ある人から聞いた話です。

巷では今、『オレ・オレ詐欺』なるものが横行していますが、県内では『いいから・いいから押し売り』が流行の兆しをみせているそうです。

一人暮らし、老夫婦家庭に、高価な電気器具をもって来て「いらない」と言っても「いいからいいから使ってくれ」と言って置いていくんだそうです。「返品したら？」と忠告すると、「見てしまったから。使ってしまったから。気の毒で、図々しくできない」とか言って60数万の液晶ワイドテレビとか、30数万のノートパソコンとかを買わされて、被害にあっている老人がいるんだそうです。山辺町・中山町・天童市での話です。じきに県内全体に被害が広がりそうな話です。

あなたが担当している、利用者さんは大丈夫ですか？

（minami）

編集後記

介護保険が開始され、はや４年が経過してしまいました。

忙しく日々過ぎてしまい、今振り返ると、ケアマネとして満足できる仕事が出来たのか問うと、まだ50点かな？

これから、要支援はベッドが使用できない？

要介護１までは、ヘルパーも使用できない？

自立支援を図り在宅生活が出来るようなプラン？

どんなプランになるの？ケアマネの苦悩は続きます。

ケアマネの為の協議会に今後もご協力宜しくお願いします。

編集委員の皆様、ご苦労さまでした。原稿依頼に快くご協力頂いた皆様ありがとうございました。おかげさまで第12号の広報誌の発行が無事におわりました。これで、私達の役割が終わりますが、これからも、ケアマネが仕事のしやすい制度を作り上げて行く為に、この協議会の役割があると思いますので、皆様の更なる参加をお待ちしています。

駄目ケアマネッコ

山形県介護支援専門員協議会会誌
第12号

発行日／平成16年３月20日
発行人／三須　良彦
発行所／山形県介護支援専門員協議会
〒990-0021　山形市小白川町２-３-31
山形県総合社会福祉センター内
TEL 023-615-6565　FAX 023-615-6521
E-mail：yacm@lapis.plala.or.jp

印刷・製本／株式会社　誠文堂印刷
〒990-0043　山形市本町１-７-50
TEL 023-632-2910　FAX 023-632-2912